ありふれた病気と漢方 ―水毒の視点から―

木村 英夫 先生

旭が丘ファミリークリニック

1982 年　順天堂大学医学部 卒業
　同年　長野県厚生連佐久総合病院 臨床研修医
1984 年　同病院 内科 救急救命センター ICU
1988 年　長野県国保川上村診療所 開設
1992 年　木村医院（鈴鹿市）勤務
1999 年　旭が丘ファミリークリニックに名称変更 現院長

はじめに

一般の診療所を受診する患者は多岐にわたるが、当院では風邪、急性胃腸炎さらには肩こり、腰痛、アトピー性皮膚炎、心身症などが漢方診療の主な対象である。このようなありふれた疾患も漢方的な見方を加えることにより治療の糸口が見つかることが多い。その際、漢方薬を上手く組み合わせる“カクテル漢方”によって治療の幅が広がる。

また、現代社会では水毒の原因が多く存在し、まさに「水浸しの時代」であることから、日常診療では水毒の症状を呈している患者を診ることが多い。水毒は、全身型、胸内型、胃腸型、関節型に分けることができるが（**図 1**）、今回は全身型を除く 3 つの型について紹介する。

図1　「水毒」の症状・所見

- 全身型
  水太り、浮腫、めまい、頭痛・頭重など
- 胸内型
  水様性の喀痰、咳・喘鳴、水様鼻水など
- 胃腸型
  心下の振水音、食欲不振、下痢など
- 関節型
  朝の手のこわばり、関節水腫など

症例 1　中耳炎や風邪を繰り返す女児（胸内型）

症例：4 歳、女児

主訴：中耳炎や風邪を繰り返す。

現病歴：中耳炎や風邪を繰り返し、耳鼻咽喉科に始終通院していた。来院時も鼻水を垂らし、抗生剤などが処方されているが 37℃の熱が続いていた。

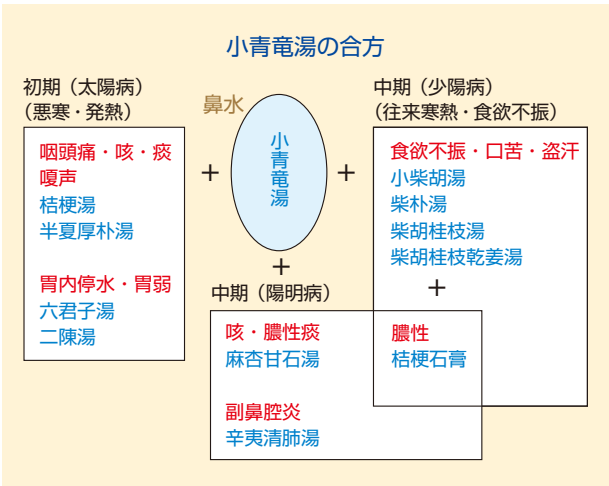
現症：体重 12.5kg と痩せ型。腹部所見として軽度腹直筋の緊張を認め、舌は淡で薄い白苔を認めた。

経過：初診時に冷たい飲み物や食べ物を控えるように指示し、小青竜湯エキス剤 1.5g ＋柴胡桂枝湯エキス剤 1.5g を 3 日分処方し、それがなくなれば小建中湯エキス剤 5g を 2 週間服用するように指示した。

2 週後の外来で「鼻水はない。風邪もひいてない。漢方薬でこんなに良くなるのですか？」と喜ばれた。さらに体質改善を目的に小建中湯を 14 日分処方した。その後、漢方薬の治療を希望したので小建中湯をさらに 30 日分処方した。

考察：鼻水を認めた場合には小青竜湯をベースとする。小青竜湯は単独で使用することもあるが、初期（太陽病）で咽頭痛があったり咳や痰が出る場合には桔梗湯や半夏厚朴湯を併用する。また、中期で食欲不振や口が苦い（少陽病）という所見があれば柴胡剤を併用する。さらに膿性の痰が出るようであれば（陽明病）石膏剤を加えることもある（**図 2**）。

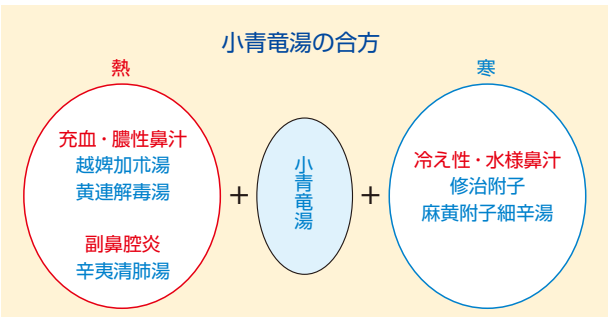
図2　風邪・気管支炎のカクテル漢方



花粉症についても、同様に小青竜湯をベースにするが充血や膿性鼻汁を認めるときには、冷やす作用のある方剤を使用し、逆に冷えがあり水様鼻汁を認

める場合には附子剤を併用する（**図 3**）。

図3　花粉症のカクテル漢方

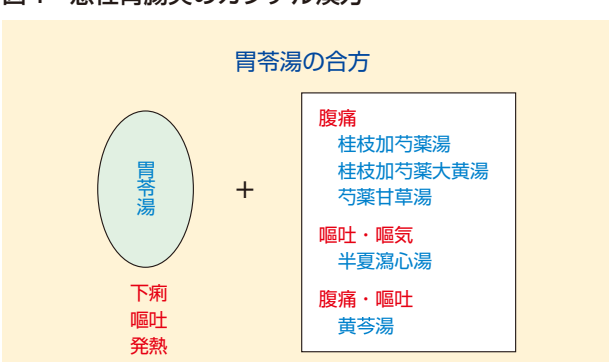


胃腸型の水毒

当院における急性胃腸炎の治療について過去 1 年間の投薬内容を検討したところ、胃苓湯を第一選択としており、その合方を含むと全体の 8 割強を占めていた。

胃苓湯は、水毒治療の五苓散と宿食の平胃散の合方であり、まさに現代のような飽食に伴う急性胃腸炎に有効であると推測される。実際には下痢、嘔吐、発熱がみられる場合には胃苓湯をベースにし、腹痛がある場合には桂枝加芍薬湯、さらに腹痛が強い場合には桂枝加芍薬大黄湯を併用することもある。また、嘔吐を認める場合は半夏瀉心湯や黄芩湯を併用することもある（**図 4**）。

図4　急性胃腸炎のカクテル漢方



症例２　両手、両膝のむくみ（関節型）

症例：34 歳、主婦、2 児の母親

主訴：両手、両膝のむくみ

既往歴：めまい（半夏白朮天麻湯が有効）、鼻かぜをひきやすく副鼻腔炎も起こした。

現病歴：3 月の「寒の戻り」頃より急に両膝が曲がらなくなり、両手もむくんで指が動かしづらくなった。痛みは軽度であった。

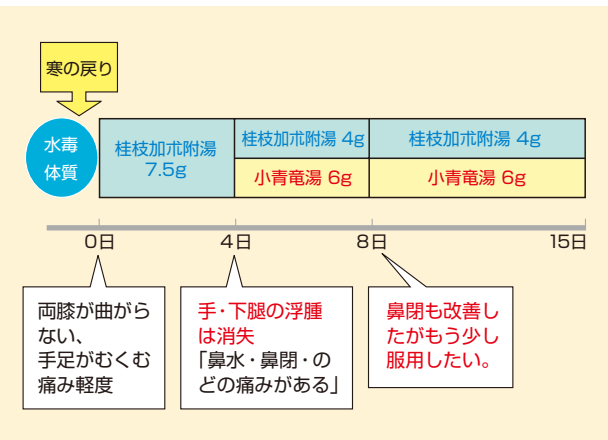
現症：痩せ型、色白で、両手・両下腿の浮腫、両膝腫脹（熱感はない）があり、腹部所見として心下水を、舌に歯痕を認めた。血液検査所見でも特記すべき異常は見られなかった。

経過：水毒体質の冷えに対して桂枝加朮附湯エキス剤を 4 日分処方した。

2 診時には手足のむくみは消失し膝も曲がるようになったが、鼻汁、鼻閉、のどの痛みがあったため小青竜湯エキス剤と桂枝加朮附湯エキス剤をさらに 4 日分処方した。

3 診時には鼻閉も改善したが、服用を続けたいという希望があったため、同一処方をさらに 1 週間処方して終了した（**図 5**）。

図5　症例2の経過



まとめ

水毒の治療は、単に薬を処方するだけではなく、水毒についての説明と日常生活における「水毒指導」も重要である。

COMMENTS

後山　“カクテル漢方”の場合、小児の投与量はどのように考えればよろしいのですか。

木村　エキス剤を単剤で使用する場合は 0.2g/kg を目安にしていますが、カクテル漢方の場合は、ベースの方剤を 0.15g/kg までとし、カクテルしてもトータルとして 0.25g/kg を超えないようにしています。

後山　大変参考になりました。ありがとうございます。